

中国語の拼音表記について

《汉语拼音正词法基本規則》をめぐって

小川 郁夫

目次

1. はじめに
2. 声調表示
3. 方位詞
4. 重ね型
5. 方向補語など
6. 単語の認定と分かち書き
 6. 1. 「何月」「何日」「何曜日」
 6. 2. 離合詞
 6. 3. 補語
 6. 4. その他
7. おわりに

1. はじめに

中国の国家教育委員会と国家語言文字工作委員会は1984年の《汉语拼音正词法基本規則（試用稿）》（以下《正词法（試用稿）》と略称）を経て、1988年7月に《汉语拼音正词法基本規則》（以下《正词法》と略称）を発表した²¹⁾。これにより中国語の拼音表記について一応依るべき基準ができたと言えるが、しかし日本の中国語教育においては今のところこの《正词法》が全面的に取り入れられているとは言い難い²²⁾。

日本中国語検定協会《中国語の環》編集室編『四訂・中国語検定試験への案内』⁹³では中国語の拼音表記について《正詞法（試用稿）》を踏まえつつも、「84年規則によって急に変更するならば、徒らに受験者の間に混乱を起こすことにもなりかねないし、また協会が自ら拠った規則は不合理なものでもなければ、誤っているというものでもなく、84年規則よりも文法上の配慮が十分に加えられており、日本人の中国語学習には好ましいものですらある。そこで、協会は84年規則に修正を加え、改めてこれを正式なものとして使用していくことにした。」と述べている⁹⁴。同書では84年規則すなわち《正詞法（試用稿）》を挙げた上で協会として使用していく修正案を明らかにしている⁹⁵。中国の《正詞法（試用稿）》から《正詞法》への修正への詳しい経緯については明らかではないが、結果的には《正詞法》は協会の修正案により近いものとなっている。しかし、ここ数年日本で陸続と発行される中国語のテキストの拼音表記については大まかには暗黙の了解のようなものがある感もあり、それは日本中国語検定協会の修正案に近いものようであるが、細かな点においてはテキストの執筆者によってまちまちであるというのが現状である。

筆者は最近、福井大学の村上公一氏と共に中国語の入門・初級用テキスト『12回で学ぶ中国語Ⅰ』『12回で学ぶ中国語Ⅱ』⁹⁶（以下『中国語ⅠⅡ』と略称）を執筆したが、拼音表記については原則として《正詞法》に従うという方針を取った。しかし、実際に作成作業を始めてみると、様々な問題点にぶつかり、《正詞法》で明確にされていない点をいくつか発見した⁹⁷。本稿では『中国語ⅠⅡ』の作成において我々がぶつかった問題点と、それに対する我々の処理方法を通して、中国語の拼音表記について考察することにする。

2. 声調表示

『中国語ⅠⅡ』の作成において我々がまずぶつかった問題点は声調表示であった。

《正詞法》では“一”“七”“八”“不”の声調表示について本来の声調で表示することになってはいるが、語音教育においては変調後の声調で示してもよいという説明が加えられている⁹⁸。

中国語を初めて学ぶ者が“一”の変調規則をしっかりと習得するのにはかなりの時間を要すると思われる。従って『中国語ⅠⅡ』では“一”の声調については変調後の声調で表すことにした。“不”の変調規則は“一”の場合ほど複雑ではないが、これも初学者の便を考えて変調後の声調で示した。ただ“七”“八”の変調に関しては実際には変調しないことも多いと考え、本来の声調で示し、実際の発音方法については教授者の判断に任せることにした。このような処理の仕方は現在日本で発行されているテキストでも比較的多いように思われる。

『中国語ⅠⅡ』の作成において我々が悩んだ声調表示の問題点は以上のような点ではない。《正詞法》に取り上げられている声調表示の問題は“一”“七”“八”“不”の変調だけであるが、中国語教育においては“是不是”の“不是”や“走来”の“来”を軽声で表記するかどうかといった問題が生ずる。ところが《正詞法》にはこれらについての規定がなく、若干の例が挙げられているだけである。従って、軽声にするかどうかという問題については、我々はその数少ない例に基づいて判断するしかなかった。

例えば、“你是不是中国人？”のように肯定と否定を組み合わせた疑問文の拼音表記について日本で発行されているテキストでは次のような2通りが見られる。

Nǐ shì bu shì Zhōngguó rén?

Nǐ shì bu shì Zhōngguó rén?

このような表記法は初学者への語音教育の便を考えて変調後の声調で示したものと考えられなくもない。“是不是”における“不是”や“不”の部分が軽声化することも変調の一種と考えるわけである。このような問題について《正詞法》では

yīng bù yīng gāi (应不应该)

の1例を挙げるのみであるが、“不应该”の部分も本来の声調で示されている。

《正詞法(試用稿)》では“好不好”“应不应该”を

hǎo-bùhǎo (好不好) yīng-bùyīng gāi (应不应该)

のように肯定と否定の間にハイフンを用い、かつ否定の“不……”の部分をひとかたまりにして示している。《正詞法》ではハイフンを取り去り、3つの語を分かち書きしているわけであるが、声調に関しては本来の声調で示す

ことにかわりはない。《正詞法（試用稿）》から《正詞法》へのこのような修正があるにもかかわらず、声調表示については変更がない以上、これを安易に無視すべきではないと我々は考えた。従って『中国語ⅠⅡ』では“你是不是中国人？”を

Nǐ shì bú shì Zhōngguó rén?

と表記した。

“来不来” “忙不忙” “会不会”なども同様に

lái bù lái (来不来) máng bù máng (忙不忙)

huì bú huì (会不会)

と表した。“不”の声調については上で述べたように変調後の声調になっている。

また、“你是不是中国人？” “他来日本不来？”のように否定の部分が文末に来る場合も

Nǐ shì Zhōngguó rén bú shì? (你是不是中国人不是?)

Tā lái Rìběn bù lái? (他来日本不来?)

のように表記した。ただし、このような表記を用いた場合、教授者は学習者に対して、肯定と否定を組み合わせた疑問文では否定の部分を軽く発音するという説明をしなければならない。

日本で発行されているテキストには初学者の便を考慮したものが多くに思われる。『中国語ⅠⅡ』でも初学者の便を考えてあえて《正詞法》に従わなかった点もある。

例えば、量詞“个”について、《正詞法》では

liǎng gè rén (两个人)

などのように本来の声調で表記しているが、“个”は実際には軽声で読まれることが多く、また多用される量詞であるので、『中国語ⅠⅡ』では初学者の便を考えて“ge”と軽声で表記した。

また、“不知道”の“知道”のように本来“zhīdao”と発音する語が否定詞“不”を伴うと“zhīdào”と発音される語については変調後の声調で示した。

bù zhīdào (不知道)

しかし『中国語ⅠⅡ』ではこのような表示の仕方は最小限にとどめ、基本的には《正詞法》を尊重する立場を取っている。

例えば日本で発行されているテキストでは“三十三”のように間に“十”を含んだ数詞は“sānshísān”のように“十”の部分を轻声で表記しているものが多い。しかし《正詞法》では数詞について1項目を設けていくつかの例を挙げすべて本来の声調で示している¹⁰⁾ので、『中国語ⅠⅡ』でも次のようにそれに従った。

sānshísān (三十三)

その他、方位詞、動詞及び形容詞の重ね型、方向補語など、轻声で表記すべきかどうかといった問題があるが、それらについては分かち書きの問題も含めて以下で個別に見ていくことにする。

なお、声調表示の問題からははずれるが、“这”“那”“哪”を“zhè”“nà”“nǎ”と表記するか“zhèi”“nèi”“něi”と表記するかについては《正詞法》に従って前者を用いた。“谁”については《正詞法》に挙げられていないが、“shuí”ではなく、口語音の“shéi”を採用した。

3. 方位詞

《正詞法》では、名詞とその後の方位詞は分かち書きすることになっている¹¹⁾。

hé lǐmian¹²⁾ (河里面) huǒchē shàngmian (火车上面)

これらのように方位詞が2音節の場合は日本で発行されている多くのテキストでも分かち書きされているが、“河里”“火车上”のように方位詞が1音節の場合は

hé li (河里) huǒchēshàng (火车上)

のように前の名詞と続けて書き、かつ方位詞を轻声にしているものが多い。『中国語ⅠⅡ』ではこのような場合も次のように分かち書きし、“里”については轻声で、“上”については本来の声調で示した。方位詞の“上”は本来の声調で発音されることが多いと判断したためでもあるが、これは《正詞法》に従ったかたちにもなっている。

hé li (河里) huǒchē shàng (火车上)

4. 重ね型

重ね型について、《正詞法》では1音節の重ね型は続けて書き、2音節の重ね型は分かち書きすることになっている¹⁹⁾。このうち

rénrén (人人) dàdà (大大) gègè (个个)

など1音節の名詞、形容詞、量詞の重ね型については、日本で発行されているテキストでもほとんど《正詞法》に従ったかたちになっており、問題はない。

また、1音節の動詞の重ね型

kànkàn (看看) shuōshuō (说说)

なども後の動詞の部分を軽声で示するのが一般的になっており、これも《正詞法》と同じかたちになっていて、この点でも大きな問題はない。

しかし“研究研究”“尝试尝试”など2音節の動詞の重ね型では日本で発行されている多くのテキストが

yánjiūyánjiū (研究研究) chángshìchángshì (尝试尝试)

としているのに対して、《正詞法》では

yánjiū yánjiū (研究研究) chángshì chángshì (尝试尝试)

と分かち書きし、かつ後の繰り返し部分を本来の声調で示している。“研究研究”が“看看”と同じ文法形式であることを考えれば、日本で発行されているテキストの拼音表記は文法形式を優先しており、《正詞法》は表記としての「見やすさ」を優先していると言える。『中国語ⅠⅡ』では《正詞法》を我々が依るべき新しい基準と考え、やはりこれに従った。また、“研究研究”などでは後の繰り返し部分が完全な軽声で発音されることは余りないだろうとも考えた。ただし《正詞法》の表記を採用した場合、教授者は学習者に自然な発音方法を指導することは必要であろう。

“雪白雪白”“通红通红”などの2音節の形容詞の重ね型については中級レベルの学習事項に属するであろうと考え、『中国語ⅠⅡ』では取り上げなかったが、これらの表記法もやはり《正詞法》に従って次のように表記すべきであろう。

xuěbái xuěbái (雪白雪白) tōnghóng tōnghóng (通红通红)

また、これも『中国語ⅠⅡ』では取り上げなかったが、“来来往往”“清清楚楚”“千千万万”などのいわゆる“AABB”型の重ね型について《正詞法》では“AA”と“BB”の間にハイフンを入れる。

láilai-wǎngwǎng (来来往往) qīngqīng-chǔchǔ (清清楚楚)
qiānqiān-wànwàn (千千万万)

日本で発行されているテキストでは一般にハイフンを入れないが、これも《正詞法》に従うべきであろうと考える。ただ、“AA”のうち後の“A”の発音について《正詞法》では“来来往往”では軽声にしているが、その他の例では本来の声調で示しているのので“来来往往”についても

lálái-wǎngwǎng

と表記して、実際の発音については教授者の指導に委ねるようにした方がよかろう。あるいは、“清清楚楚”“千千万万”についても

qīngqing-chǔchǔ (清清楚楚) qiānqian-wànwàn (千千万万)

と表記する方法も考えられる。いずれにせよ、今後どちらかに統一されることを期待したい。

上で1音節の動詞の重ね型については大きな問題はないと述べたが、“看一看”“看了看”“看了一眼”などでは問題が発生する。《正詞法》にはこのような例が挙げられていないのである。《正詞法(試用稿)》では“看了看”“看了一眼”の例があり、次のように拼音表記されている。

kànle kàn (看了看) kànle yī kàn (看了一眼)

これに従えば“看一看”も“kàn yī kàn”とすべきだと判断される。しかし、どのような経緯でこれらが《正詞法》から削除されたのか定かではない。日本で発行されているテキストでは多くのものが“看一看”を“kànyikan”と表記する。『中国語ⅠⅡ』では一応日本で発行されているテキストに従ったが、“kàn yī kàn”とすべきではなかったかという反省もある。

“看了看”“看了一眼”については『中国語ⅠⅡ』で取り上げていないが、日本で発行されているテキストでは《正詞法(試用稿)》にある表記の他、

kànlekan kànle kan (看了看) kànleyikan (看了一眼)

など様々である。これらについては中国で何らかの新しい発表があることを期待したい。

5. 方向補語など

文法的には方向補語は1音節の方向補語、すなわち単純方向補語と、2音

節の方向補語、すなわち複合方向補語に分けられる。そしてその拼音表記について日本で発行されているテキストの多くではどちらの場合も次のように前の動詞に続けて書き、方向補語の部分を軽声にしている。

zǒulai (走来) zǒujinlai (走进来)

《正词法》では、動詞と補語の両方もが1音節の場合は続けて書き、そうでない場合には分かち書きをするようになっている¹⁴⁾。

zǒulái (走来) zǒu jinlai (走进来)

《正词法》がここで補語と言っているものには方向補語の他、結果補語も含まれているが、これらについても同様に次のように示されている。

gǎohuài (搞坏) zhěnglǐ hǎo (整理好)

日本で発行されているテキストの多くでは動詞と結果補語の両方もが1音節ではない場合も、次のように動詞と結果補語を続けて書いている。

gǎohuài (搞坏) zhěnglǐhǎo (整理好) xǐgānjìng (洗干净)

このことから日本で発行されているテキストの拼音表記は文法構造を優先し、《正词法》は「見やすさ」を優先していることが分かる。動詞と補語がどちらも2音節の場合は、《正词法》に従って分かち書きした方が見やすいことは言うまでもない。

yánjiū xiaqu (研究下去) yánjiū qīngchu (研究清楚)

ただ、方向補語の表記法について、《正词法》には若干の疑問点がある。1音節の方向補語として《正词法》に挙げられているのは“走来”の1例だけであるが、“来”が軽声になっていない点である。方向補語は一般に軽く発音される。《正词法》でも“走进来”の“进来”は軽声で示されている。《正词法》で“走来”の“来”を本来の声調で示している理由についてはよく分からないが、『中国語ⅠⅡ』では分かち書きについては《正词法》にならない、方向補語の声調については1音節の場合も2音節の場合も軽声で示した。例えば次のようにである。

zǒulai (走来) zǒuqu (走去)

pǎo shànglai (跑上来) ná huiqu (拿回去)

“整理好”“洗干净”“研究清楚”のように「動詞+結果補語」で3音節以上になるものについては、『中国語ⅠⅡ』では取り上げなかったが、これも「見やすさ」を優先する《正词法》に依るべきであろう。

6. 単語の認定と分かち書き

《正词法》では一応単語を単位として拼音表記することが原則となっており¹⁵⁾、これは誰もが認めることであろう。しかし、中国語ではこの単語の認定がしばしば困難な問題となる。

6. 1. 「何月」「何日」「何曜日」

『中国語ⅠⅡ』の作成でまず最初にぶつかった単語の認定についての問題は、中国語の入門・初級用テキストならば比較的早い時期に必ず登場する次のような例文においてであった。

A：今天几月几号？

B：五月十八号。

A：今天星期几？

B：星期三。

上の対話において、単語の認定で問題になるのは“几月”“几号”“星期几”の部分である。すなわちこれらを1語と考えるか、2語と考えるかという問題である。

“五月”“星期三”などの月の名称、曜日の名称は1語であると考えるのが自然であるように思われる。日本語の「五月」「水曜日」なども1つの概念を表しているように思われる。『中国語ⅠⅡ』では月の名称、曜日の名称を1単語であると見なした。しかし、“十八号”など日の呼び方に関しては“一号”から“三十一号”までと数が多く、また全部で31個ある日の呼び方がそれぞれ1つの独立した概念を表しているとは考えにくいので、数詞に名詞¹⁶⁾が加わったものとして、2語と見なした。

“几”を含んだ“几月”“星期几”についても、“五月”“星期三”を1単語と見なしたこととの整合性から1単語として扱った。《正词法》が“十几”“几十”の拼音表記を“shíjǐ”“jǐshí”としている¹⁷⁾こともその根拠となろう。また、初学者に混乱を引き起こさないためという意図もある。

“几号”についてはもちろん2語と見なした。『中国語ⅠⅡ』では上に挙げた対話を次のように拼音表記した。

A : Jīntiān jǐyuè jǐ hào?

B : Wǔyuè shíbā hào.

A : Jīntiān xīngqījǐ?

B : Xīngqīsān.

《正词法（试用稿）》には月の名称、曜日の名称の表記法はある¹⁹⁹が、“几月”“星期几”などの例は挙げられていない。また、《正词法》ではこれらの表記法がすべて削除されている。中国で今後何らかの発表があることを期待したい。

6. 2. 離合詞

《正词法》では、動詞と賓語は

kàn xìn (看信) chī yú (吃鱼) kāi wánxiào (开玩笑)

のように分かち書きすることになっている¹⁹⁹が、次のような「動詞+賓語」構造の、いわゆる離合詞は1語又は1つのまとまった概念を表す語として、その拼音表記を次のように示している²⁰⁰。

qiānmíng (签名) zhòngtián (种田) kāihuì (开会)

『中国語 I II』で挙げた次のような語は一般に誰もが「動詞+賓語」構造の離合詞と認めるもので問題はなかろう。

dǎzhēn (打针) sàn bù (散步) jiéhūn (结婚)

shēngqì (生气) huáibīng (滑冰) fāshāo (发烧)

『中国語 I II』では次のような語も「動詞+賓語」構造の離合詞と判断して分かち書きしなかった。

jiǎngkè (讲课) shàngkè (上课) xiàkè (下课)

kàn bǐng (看病) shuō huà (说话) zǒu lù (走路)

上に挙げた語は2語であると考えられる人も多いと思われるが、我々はこれらの語が《現代汉语词典》²¹¹に収録されていることを単語としての認定基準とした。

《正词法》を押し広めるために作られたとされる《汉语拼音词汇》²²²には次のような「動詞+賓語」構造も1語として収録されている。

huíjiā (回家) chīfàn (吃饭) zuòfàn (做饭)

chōuyān (抽烟) xīyān (吸烟) jìxìn (寄信)
xiàyǔ (下雨) xiàxuě (下雪) guāfēng (刮风)
kànbào (看报) xǐliǎn (洗脸) chūhàn (出汗)

これらのうち“吃饭”は《現代汉语词典》に収録されているが、それは「生活する。生計を立てる」の意味としてであり、「食事をする」又は「米の飯を食べる」という意味としてではない。しかし、「食事をする」という意味を表す場合も、1つの概念を表すと考えて1語と見なすことも可能であるように思われる。『現代中国語辞典』²⁹⁾では“吃饭”を「食事をする」「生計を立てる」という意味で1語として収録し、更に「米の飯を食べる」という意味で「連語」としても収録している。同辞典の「連語」としての拼音表記は

chī fàn (吃饭)

のように分かち書きされている。

また、“回家”は《現代汉语词典》には収録されていないが、『現代中国語辞典』では「帰宅する」「帰省する」の意味で1語として収録されている。

その他のものは《現代汉语词典》には収録されていないが、“做饭”“抽烟”“吸烟”“寄信”“下雨”“下雪”“洗脸”“出汗”は、『現代中国語辞典』では「連語」として収録されている。拼音表記はもちろん分かち書きになっている。

これらが「連語」として辞典に収録されているということは、これらにおける動詞と賓語の関係の緊密さを示すものであろう。また“吸烟室”“寄信人”“洗脸盆”などでは

xīyānshì (吸烟室) jìxìn rén (寄信人) xǐliǎnpén (洗脸盆)

のように拼音表記せざるをえないことから、“吸烟”“寄信”“洗脸”などが1語としての性質を持っていることも分かるが、筆者としては《汉语拼音词汇》に挙げられている上のような例をすべて1語と考えることにはやはり抵抗を感じる。

『中国語ⅠⅡ』では日本で発行されている中国語辞典²⁴⁾も参考にして、これらのうち“回家”“吃饭”を1語として取り上げた。

6. 3. 補語

方向補語と結果補語の拼音表記については既に5で見た。ここでは主に状態補語と可能補語の拼音表記について見ていく。

《正詞法》では構造助詞“得”とその他の語は分かち書きすることになっている²⁵⁾。

dǎsǎo de gānjìng (打扫得干净) xiě de bù hǎo (写得不好)

上の2例は一般に状態補語と呼ばれるものである。次の2例は状態補語と呼ばない人もあろうが、形式としては状態補語と同じように“得”を伴っている。《正詞法》ではやはり次のように分かち書きされている。

hóng de hěn (红得很) lěng de fādǒu (冷得发抖)

しかし、日本で発行されているテキストの多くではこのような場合、次のように“得”とその前の動詞や形容詞を続けて表記している。そしてこのような表記法は《正詞法(試用稿)》で採用されていたものでもある。

dǎsǎode gānjìng (打扫得干净) hóngde hěn (红得很)

つまり《正詞法》では“得”を分かち書きするように修正されているわけであるが、『中国語ⅠⅡ』が《正詞法》に従う以上、このような修正点は無視することはできない。また、《正詞法》では“得”の他に、“的”“地”も分かち書きすることになっている。

wǒ de shū (我的书) mài qīngcài luóbo de (卖青菜萝卜的)

Tǎnbái de gàosu nǐ ba. (坦白地告诉你吧。)

“的”“地”については、日本で発行されているテキストでも分かち書きしているものが多い。“得”についても《正詞法》に従って分かち書きした方が表記としてすっきりするようにも思われる。

“得”を用いる補語としては状態補語の他に可能補語がある。上に挙げた“打扫得干净”には「きれいに掃除してある」という意味の状態補語の場合と「きれいに掃除できる」という意味の可能補語の場合がある。《正詞法》の拼音表記には可能補語の場合も含まれているのであろうか。

日本で発行されているテキストでは、可能補語は次のようにひとかたまりにして表記し、“不”を軽声にしているものが多い。

dǎsǎodegānjìng (打扫得干净) dǎsǎobugānjìng (打扫不干净)

《正詞法》に従えばこれらも次のように拼音表記するものと思われる。

dǎsǎo de gānjìng (打扫得干净) dǎsǎo bù gānjìng (打扫不干净)

これは「構造助詞“得”は分かち書きする」「副詞“不”は分かち書きする²⁷⁰」という《正詞法》の規則に従ったものである。しかし、この場合の“打扫得干净”の拼音表記は状態補語の場合と全く同じになる。既に見てきたように、《正詞法》は文法構造よりも表記としての「見やすさ」を優先しているようであるから、このような点は余り大きな問題とならないのかもしれない。もともと漢字で表記された“打扫得干净”は状態補語の場合の意味と可能補語の場合の意味の2つを持っており、表面上それを区別することはできないのである。

ところで、“对不起”“吃得消”も文法的には可能補語を含んだ表現であるが、《正詞法》ではこの2つを、1つのまとまった概念を表す3音節構造として次のように拼音表記している²⁷¹。

duìbuqǐ (对不起) chīdexiāo (吃得消)

確かにこれらは“对得起”“吃不消”も含めて“对”“起”“吃”“消”などの原義を離れて1つのまとまった概念を表していると言える。次のような例も同様で、多くの辞典に1語として収録されている。

láidejí (来得及) lái bù jí (来不及)

kàndeqǐ (看得起) kàn bù qǐ (看不起)

chīdekāi (吃得开) chī bù kāi (吃不开)

しかし、次のような可能補語を含んだ表現が1つのまとまった概念を表しているかどうかの判断は個人によって異なるように思われる。

吃得来 吃不来 吃得上 吃不上 吃得下 吃不下

吃得住 吃不住 买得起 买不起 称得起 称不起

また、次のような可能補語を含んだ表現は1つのまとまった概念を表しているとは言い難く、それぞれの動詞や形容詞が明らかに原義を保っている。

看得懂 看不懂 写得好 写不好 做得完 做不完

《正詞法》に従えばこれらは次のように拼音表記するものと考えられる。

kàn de dǒng (看得懂) kàn bù dǒng (看不懂)

xiě de hǎo (写得好) xiě bù hǎo (写不好)

zuò de wán (做得完) zuò bù wán (做不完)

しかし、中国語の入門・初級用テキストの可能補語を説明する部分で次のような2通りの表記法が混在することは学習者に混乱を引き起こすことが予

想される。

duìbuqǐ (对不起) lái de jí (来得及)

kàn de dǒng (看得懂) xiě bù hǎo (写不好)

また、“吃得來”“買不起”などでは分かち書きするかどうか判断するだけの材料がない。

《現代漢語詞典》では次のように可能補語を含んだ表現の“得”“不”をすべて分かち書きしている²⁸⁾。

chī de xiāo (吃得消) chī bu xiāo (吃不消)

lái de jí (来得及) lái bu jí (来不及)

kàn de qǐ (看得起) kàn bu qǐ (看不起)

《現代漢語詞典》のこの表記法には文法的な一貫性がある。しかし、《正詞法》に“duìbuqǐ (对不起)”“chīdexiāo (吃得消)”の2例が挙げられている以上、それを無視して新たに《現代漢語詞典》の表記法を採用すべきではないだろう。結局、『中国語 I II』では可能補語はすべて続けて書き、“不”は軽声で示した。

tīng de dǒng (听得懂) tīng bu dǒng (听不懂)

chī de liǎo (吃得了) chī bu liǎo (吃不了)

duì de qǐ (对得起) duì bu qǐ (对不起)

このような表記法は日本で発行されているテキストの多くが採用しているものと同じである。可能補語の拼音表記について《正詞法》に明確な記述がないためにこのような方法を取らざるをえなかったが、中国での今後の何らかの発表を待ちたい。

最後に“忙极了”“饿死了”“好多了”の“极了”“死了”“多了”など程度補語と呼ばれるものについて簡単に見ていく。

日本で発行されている中国語辞典では“极了”を1語として収録しているものが多い。従って拼音表記も当然次のようになっている。

máng jí le (忙极了)

しかし、《現代漢語詞典》や《漢語拼音词汇》には“极了”は収録されていない。筆者は“……极了”は意味的には程度を表しているが、形式としては結果補語と同じであると考えている。『中国語 I II』では“极了”を2語と考え、結果補語と同様に次のように拼音表記した。“了”は文末の“了”として分かち書きした。

mángjí le (忙极了)

“饿死了” “好多了” も同様である。

èsǐ le (饿死了) hǎoduō le (好多了)

ただし、“极” “死” “多”の前の語が2音節の場合には分かち書きしたが、これは《正词法》に従って「見やすさ」を優先したものである²⁹⁹。

gāoxìng jí le (高兴极了) tǎoyàn sǐ le (讨厌死了)

máfan duō le (麻烦多了)

6. 4. その他

ここでは分かち書きや拼音表記についてのこまごまとした問題点をいくつか見ていく。

“住在大阪”などにおける“在”は、日本で発行されているテキストでは“zhùzài”又は“zhùzai”のように前の動詞と続けて表記されているものが多いが、『中国語ⅠⅡ』では次のように分かち書きした。

zhù zài Dàbǎn (住在大阪) chūshēng zài Zhōngguó (出生在中国)

動詞の後に置かれる“在”については《正词法》に挙げられていないが、《正词法》が介詞とその他の語を分かち書きにしている³⁰⁰点、及び《正词法》に挙げられている次例における“于”が“在”に置き換え可能である点を根拠とした。

shēng yú 1940 nián (生于1940年)

“送给你”などにおける“给”は、日本で発行されている多くのテキストでは“sònggei”のように前の動詞と続けて、また軽声で表記されているが、『中国語ⅠⅡ』では分かち書きし、本来の声調で示した。

Wǒ sòng gěi nǐ yí jiàn lǐwù. (我送给你一件礼物。)

Qǐng bǎ zhè běn shū dì gěi tā. (请把这本书递给他。)

これらの“给”が介詞か動詞かという議論はここでは取り上げないが、介詞だとすれば「動詞+介詞」として上の“生于”と同様に処理できる。また、動詞だとすると“送给”“递给”で2つの動詞が並んだものとして一応処理できるように思われる。ただ、文法的には“送给”“递给”で1つの動詞と考えることも不可能ではないようで、実際に《汉语拼音词汇》や『現代中国

語辞典』では“送给”“递给”“发给”“交给”“让给”などが1語として収録されている。しかし“動詞+给”の例は“传给”“分给”“还给”“借给”“寄给”“卖给”“献给”“赠给”などのように数が多く、1語として扱うのに適当でないものもあるようである。“给”は分かち書きするという、『中国語 I II』で採用した方法が一応無難であると思われる。

次は“没有”についてである。“没有”には動詞としての用法と副詞としての用法があるが、副詞としての拼音表記は、日本で発行されている多くのテキストが次のように示している。

méiyóu (没有)

動詞としての拼音表記は次のように様々である。

méiyóu méiyǒu méi yǒu (没有)

最後の“méi yǒu”は動詞“有”の前に否定詞“没”が置かれたもので、“没有”を2語と考える場合の表記である。

《现代汉语词典》には1語の動詞として“没有”が収録されている。これに基づき、我々は“méi yǒu”という2語としての表記は採用しないことにした。さて、“méiyóu”にするか“méiyǒu”にするかであるが、《现代汉语词典》では動詞の場合も副詞の場合も“méi·yǒu”と表記している。同書の“·”を用いたこの表記は「一般には“有”を轻声で読むが、第3声で読むこともある」という意味を表している。

《正词法》には轻声であるかどうかの表記でやや疑わしい点が若干ある。例えば“里面”は《正词法》では“lǐmian”となっている³¹⁾が、《现代汉语词典》や《汉语拼音词汇》では“lǐmiàn”となっている。そのような例は他にも次のようなものがある。

	《正词法》	《现代汉语词典》等
天上	tiānshang	tiānshàng
前面	qiánmiàn	qiánmian
东边	dōngbiān	dōngbian

『中国語 I II』では単語自体の拼音表記は《现代汉语词典》に従うことにした。そして“méi·yǒu”のような例は“méiyǒu”のように“有”の部分で本来の声調で示すことにした。学習者が漢字本来の声調を知ることは重要だと考えたからでもある。同様に、第2音節を轻声で読むことも多い“夫人”“机会”“因为”“愿意”なども次のようにすべての音節を本来の声調で示

した。

fūrén (夫人) jīhuì (机会) yīnwèi (因为) yuànyì (愿意)

これらの語の第2音節を轻声で読むかどうかは個人差もあるだろうが、テキストとしては本来の声調で示し、発音の説明は教授者に委ねればいだろう。

7. おわりに

以上、中国語の拼音表記について、『中国語ⅠⅡ』の作成において我々が採用した方法と、その採用理由について見てきた。本稿の最初に述べたが、『中国語ⅠⅡ』の拼音表記は原則として《正詞法》に従っている。

外国人が中国語を学ぶ場合、中国語の拼音表記は漢字の発音記号としてとらえられている。漢字を見て正しい発音ができるようになるまでの補助手段なのである。それに対し、《正詞法》は本来の漢字表記と等価の、ローマ字による表記をするための規則である。従って、外国人に対する中国語教育という点から見れば、日本で発行されているテキストの拼音表記の方が初学者に対するより適切な配慮がなされているかもしれない。しかし、中国で拼音表記に関するこのような規則ができた以上、日本での中国語教育においてもこの規則が用いられるべきではないかという考えに基づいて、我々は『中国語ⅠⅡ』を作成した。ただ、《正詞法》に従いながらも本稿で述べたような多くの問題点が出てくるのは、中国語という1つの言語を、本来の表記文字である漢字ではなく、全く異質のローマ字で表記することの困難さにあるのだろう。中国語を漢字で表記する場合には、例えて言えば原稿用紙の1マス1マスに1つずつ漢字を埋めていくような作業ですむが、ローマ字で表記するためには何らかの規則に従って分かち書きしなければならないからである。また《正詞法》に挙げられている例は語又は語句のものが多く、文としての例はあまり多くない。《正詞法》に比較的長い文章の拼音表記が挙げてあれば、本稿で扱った問題点のいくつかは類推できたのではないかと思われる。『中国語ⅠⅡ』で我々が採用した拼音表記が絶対に正しいと筆者は確信しているわけではないし、不明な点もまだ多く存在しているが、最後に『中国語ⅠⅡ』で採用した方法と筆者自身の考えによる長文⁹²⁾の拼音表記の実例を

挙げて本稿の締めくくりとしたい。

Wǒ yòu zài jiǎbǎn shàng yùjiàn tā le, lì zài chuánbiān, shēnzi
我 又 在 甲 板 上 遇 见 她 了, 立 在 船 边, 身 子
kào zhe tiě lán gān³³, wàng zhe nà hǎi.
靠 着 铁 栏 杆, 望 着 那 海。

Wǒmen yǐjīng yǒu sān tiān bùcéng kànjiàn lùdì le. Zài wǒmen de
我 们 已 经 有 三 天 不 曾 看 见 陆 地 了。在 我 们 的
zhōuwéi zhǐ yǒu lán sè de shuǐ, wúbiān-wújì de, shènzhì zài tiānbiān
周 围 只 有 蓝 色 的 水, 无 边 无 际 的, 甚 至 在 天 边
yě bùcéng lùchū yìdiǎnr shānyǐng lái. Lùdì shàng de yíqiè duìyú wǒ
也 不 曾 露 出 一 点 儿 山 影 来。陆 地 上 的 一 切 对 于 我
yǐjīng chéng le guòqù de mèng hēn. Lán sè de hǎishuǐ zài wǒ de yǎn qián
已 经 成 了 过 去 的 梦 痕。蓝 色 的 海 水 在 我 的 眼 前
zhǎnkāi. Hǎishuǐ yì tiān biànhuàn yí cì yánsè, cóng míngliàng de
展 开。海 水 一 天 变 换 一 次 颜 色, 从 明 亮 的
lán sè biàndào shēnhēisè, zhè gào sù wǒmen: yè lái le.
蓝 色 变 到 深 黑 色, 这 告 诉 我 们: 夜 来 了。

Duìyú zài hǎishàng de wǒmen, yè hé rì shì méiyǒu duō dà fēnbié
对 于 在 海 上 的 我 们, 夜 和 日 是 没 有 多 大 分 别
de, chú le hǎi hé tiān gǎibiàn yánsè wài. Zài yèli, kōngqì suīrán
的, 除 了 海 和 天 改 变 颜 色 外。在 夜 里, 空 气 虽 然
bǐjiào liángshuǎng, dànshì duǒ zài cāng li yījiù hěn rè. Érqiè wǒ
比 较 凉 爽, 但 是 躲 在 舱 里 依 旧 很 热。而 且 我
de xīnli ránshāozhe yì zhǒng kěwàng, suǒyǐ wǒ bù nénggòu zǎoshuì³⁴。
的 心 里 燃 烧 着 一 种 渴 望, 所 以 我 不 能 够 早 睡。
Tā sìhu yě shì zhèyàng. Wǒ yǐjīng zhèyàng de yùjiànguo tā sān cì le.
她 似 乎 也 是 这 样。我 已 经 这 样 地 遇 见 过 她 三 次 了。

Zhè yì wǎn bǐ qián liǎng cì gèng chí. Shuǐshǒumen yě yǐjīng
这 一 晚 比 前 两 次 更 迟。水 手 们 也 已 经
shuì le. Chú le chuán yáodòng, fēng chuī wéigān de xiǎngshēng, zài
睡 了。除 了 船 摇 动、风 吹 桅 杆 的 响 声, 再

méiyǒu biéde shēngyīn. Bù, bù néng shuō méiyǒu biéde shēngyīn, yīn-
没有 别的 声音。不，不能 说 没有 别的 声音，因
wèi hǎishuǐ hái zài chuán dǐxia sīyǔ, ǒu'ěr hái yǒu jiǎobùshēng
为 海水 还在 船 底下 私语，偶尔 还有 脚步声
qīngqīng de cóng cāng li sòng chulai。
轻轻 地 从 舱 里 送 出来。

Tā bù shuōhuà, wǒ yě bù shuōhuà. Tā kào zhe lángān kàn hǎi, wǒ
她 不 说话，我 也 不 说话。她 靠着 栏杆 看 海，我
zhàn zài jiǎbǎn shàng wàng xīngxīng, bùjǐn wàng xīngxīng, hái kàn
站 在 甲板上 望 星星，不仅 望 星星，还 看
tā, kàn tā de tóufa。
她，看 她的 头发。

Hǎi qīhēi de xiàrén, qīhēi de lián bái mò yě bèi tā yān mò le. Wǒ
海 漆黑 得 吓人，漆黑 得 连 白沫 也 被 它 淹 没了。我
cóng tiānkōng bǎ yǎnjīng yí xià lái de shíhòu, wǒ zhǐ kànjiàn yí piàn
从 天空 把 眼睛 移 下来 的 时候，我 只 看见 一 片
hēisè. Tā de yīfu hé hǎishuǐ shì tóngyàng de yánsè. Zhǐyǒu zài tóu
黑色。她的 衣服 和 海水 是 同样 的 颜色。只有 在 头
shàng shǎnyào zhe jīnhuáng sè tóufa, shǐ wǒ jìqǐ le xīngguāng. Wǒ yòu
上 闪耀 着 金黄色 头发，使 我 记 起了 星光。我 又
tái qǐ tóu qù wàng xīngxīng. (Bā Jīn 《Hǎi De Mèng》)
抬 起 头 去 望 星星。(巴 金 《海 的 梦》)

注 1) 《语文建设》1988. 4。

- 2) 筆者の手もとにある中国語テキストの中で、その前言などで拼音表記を《正词法》に依ったと明記しているものとしては『ポイント学習 中国語初級(上)』『同(下)』(大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著、東方書店、1993)がある。また、拼音表記を《正词法(試用稿)》に依ったと明記しているものとして『經濟中国語』(西村明・岩佐昌暉編、白帝社、1987)がある。 3) 光生館、1991。
4) 49頁。

- 5) ただ、日本中国語検定協会『中国語の環』1989・3第7号「汉语拼音正詞法基本規則」には「協会は84年『試用編』に若干の修正を加えたものによって、試験問題を作成、また協会関係の出版物などにも使用してきた。88年公布の規則とのちがいについては現在検討中であり、まだ全面的にこの規則によるべきかどうか最終決定をしていない。しかし、協会としては今回発表の規則を無視することもできないので、検討の結果は適当な方法で受験者に周知するつもりである。」とある。
- 6) 白帝社、1994。
- 7) 『日本ビジネス中国語学会会報』第3号「汉语拼音の正詞法について」の中で伊井健一郎氏は《正詞法》について、「中級上級用講読テキスト『さらば、瀬戸内海!』の『ピンイン版』作成の際には、実際に書き写する段階で多くの疑問と戸惑いを覚えた。」と述べておられる。なお、『さらば、瀬戸内海!』は鄧友梅著、伊井健一郎・董静如編、白帝社、1993。
- 8) 《正詞法》10。
- 9) 《正詞法》6. 1。
- 10) 《正詞法》5。
- 11) 《正詞法》1. 2。
- 12) “里面”について《正詞法》では“límian”としているが、『中国語 I II』では“límian”とした。本稿6. 4参照。
- 13) 《正詞法》0. 4。
- 14) 《正詞法》2. 3。なお、“走来”の例は《正詞法》0. 2に挙げられている。
- 15) 《正詞法》0. 1。
- 16) “号”を名詞ではなく、量詞と考える人もいるであろうが、量詞と考えるならば“十八号”などは《正詞法》5. 4により分かち書きされることになる。
- 17) 《正詞法》5. 4。
- 18) ただ、“一月 Yīyuè” “三月 Sānyuè” などのように1番目の文字を大文字で表記することになっており、受け入れ難い。なお、“一日”については“yī rì”と分かち書きされている。
- 19) 《正詞法》2. 2。

- 20) 《正词法》0. 1 及び 0. 2。
- 21) 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编、商务印书馆、1984。
- 22) 《汉语拼音词汇》编写组、语文出版社、1989年重编本、1991。
- 23) 香坂順一編著、光生館、1990第12刷。
- 24) 『現代中国語辞典』の他、上野恵司著『標準中国語辞典』（白帝社、1991）。
- 25) 《正词法》6. 4。
- 26) 《正词法》6. 1。
- 27) 《正词法》0. 2。
- 28) 実際には“chī ·de xiāo”のように軽声を表す記号“·”が加えられているが、ここでは省略した。また、“对不起”は“duì·bu qǐ”のように“不”が分かち書きされていないが、他の例から推測して、これは誤植であると判断される。正しくは“duì ·bu qǐ”であろう。
- 29) 《正词法》2. 3。また、本稿5参照。
- 30) 《正词法》6. 2。
- 31) 《正词法》1. 2。なお、その後の“天上”は《正词法》1. 2に、“前面”“东边”は《正词法》6. 2に挙げられている。
- 32) 巴金《海的梦》（《巴金中篇小说选》、四川人民出版社、1980）の冒頭部分。
- 33) “tiě lángān”と分かち書きすべきかもしれない。ただ例えば“石栏杆”であれば“石”は一般には単独で用いられないので“shí lángān”と表記すべきであろうと考えられる。また、“桥栏杆”は『現代中国語辞典』に“qiáolángān”として収録されている。これらに倣ってここでは“铁栏杆”も1語として扱った。（なお『現代中国語辞典』の“桥栏杆”は“桥栏干”となっている。）
- 34) 『現代中国語辞典』には1語として収録されているが、“zǎo shuì”と分かち書きすべきかもしれない。